



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3901		
科目名	企業研究		
担当教員	宮脇 健,田上 雄大,瀧川 修吾		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 4		
講義室	1306	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	キャリア		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP2-B 「自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢」自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP6-K 「表現力・対話力」文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-C 「他者理解・倫理観・公共心」人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP8-M 「省察力」知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B 1 自己啓発（30%） C 1 倫理的思考・社会認識（20%） K 1 ライティングコミュニケーション（10%） K 1 オーラルコミュニケーション（20%） M 1 統合的・応用学修（20%）		
教員の実務経験	授業担当教員は官公庁並びに企業との危機管理に関わる研究活動、社会的実践活動を行っており、その中で培った様々な職業の方との経験を、学生のグループワークや演習の作業での学修に還元する予定です。また、実際に企業で活躍し、キャリア教育に従事してきた外部講師、中小企業診断士として企業と関わられてきた外部講師、そして、企業や大学等でマナー講座を担当されてきた外部講師を招き、企業研究で必要となる、社会人としての必要なマインドとスキルを還元してもらう予定です。（1回、2回、3回、4回、5回、6回、7回、8回、9回、10回、11回、12回、13回、14回、15回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標とステージ 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	キャリア教育の一環として、カリキュラムに基づく専門的な学修を社会に出た後の就業に活かすために、企業研究を内容とする科目を設置します。危機管理の学びを活かせる企業や業界を具体的に挙げて、受講生が主体的に業界研究、企業研究を行い、受講生によるグループワークやプレゼンテーションを重ねながら、危機管理に関する業界や企業に関する知識を獲得し、自らのキャリア形成に活かすことを目的としています。授業形態は(講義・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード キャリア教育、企業、就業		
授業の趣旨	■副題 危機管理に関連する企業やキャリアについて、専門的に企業研究・業界研究を行うことで、社		

	会の中で広範にわたる危機管理にかかわる仕事について知り、理解を深め働くことに意義について理解します。 ■授業の目的 危機管理学部での専門的な学修を社会に還元するためには、その学修を活かすことが出来るキャリアについて理解しなければいけません。そこで、3年次前期において、企業や自治体の業種や職種、就職活動についての研究を「キャリア・デザインⅠ」において実施します。受講生は、まず、第一段階となる、社会に出て就業するためのキャリアイメージの形成というメタ的な知識の獲得を経て、第二段階では、グループワークを行い、企業研究・業界研究を進めることによる、企業や業界の知識の獲得のみならず社会人として必要なスキルとナレッジを修得します。そして、第3段階として、グループで調べてきた企業・業界のプレゼンテーションと講評を繰り返しながら、第二段階で修得したスキルやナレッジを洗練させ磨きあげることで、インターンシップ先である企業で通用する、社会を見る目、企業を見る力を涵養することを目的としています。その能力が涵養されることにより、今まで構築された企業へのある特敵の見方からのイメージを払拭し、新たな価値観を再構築し、企業に対してよりの確な評価を行うことができるようになります。 ■授業のポイント 危機管理にかかわる仕事をイメージすることは意外に難しいといえます。そのため、ある特定の企業やイメージが先行してしまうことがあります。しかしながら、我々が良く知っている、危機管理とはかけ離れたと思える企業でも、危機管理にかかわる部署や取り組みを行っている場合があります。ゆえに、本授業科目を通して、様々な企業を研究することで、的確な企業選択やキャリア選択を出来る目を養い、働くことに意義を再度検討してもらうため、講義と演習を含めたキャリア教育を行います。				
総合到達目標	危機管理学部での学びを社会に還元するために、企業や自治体などの機関に関する活動について理解し、社会人として必要なスキルとナレッジを修得する。 ■具体的に自分のキャリアイメージが形成できる。(1回目、2回目、14回目、15回目) ■企業研究の方法について理解して実践できる。(3回目、4回目、5回目、6回目、7回目、8回目、9回目、10回目、11回目、12回目、13回目) ■そのためのキャリアに関するメタ的な知識を修得できる。(1回目、2回目、3回目、4回目、5回目、6回目、7回目、8回目、9回目、10回目、11回目、12回目、13回目) ■将来の志望する企業や業種に関する説明を他者に説明できる。(14回目、15回目) ■他者に説明するために必要なプレゼンテーションスキルを修得できる。(6回目、7回目、8回目、9回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目) ■企業で働くためのマナーを身に付けることができる。(5回目、6回目)				
成績評価方法	■キャリアデザインシート:8回(30%) 適応リーブリック B1、C1、K1、M1(第1回、2回、3回、4回、5回、10回、14回、15回) (評価の観点) 授業の際に自身のキャリアや将来の仕事についての理解度についてのはかるために書きます。つまり、社会に出るまでに自身で足りない課題や強みをしっかりと把握しているかという点を評価します。 (フィードバック) 提出後の授業で必ずフィードバックをして足りない点などは個別に指導します。 ■グループワークによる貢献度: 毎授業のワーク作業(30%) 適応ルーブリック B1、C1、K1、K2 (評価の観点) 報告用の資料の作成のためのグループで役割を果たしているのかどうか複数名の教員が所定の評価項目を基にチェックを行い評価します。 (フィードバック) 作業中にフリーライドしている学生には適宜、作業への参加を促します。また、グループ内で作業が進まない場合には適宜、教員がグループと話をし、改善点を提示します。 ■PPTによる報告: 2回(40%) 適応ルーブリック B1、C1、K1、K2(第10回、第14回) (評価の観点) 企業研究での報告のPPTの出来栄(形式・内容)、プレゼンテーションの出来、質疑応答への対応を評価します。また学生間でのピア評価も用いて、形式要件や報告の内容を評価します。 (フィードバック) 報告の際に、講評とピア評価の結果をフィードバックすることで、自分の出来、課題、どうするとさらに良くなるのかなどは理解できるようにします。ただし、学生からのピア評価については、誰が評価されたのか、特定されない形で行い、表現なども確認し、必要があれば修正したのちに後日各グループに対してフィードバックを行います。				
履修条件	就職セミナーも併せて受講することを条件とする。				
履修上の注意点	特にありません。				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ キャリアデザイン入門 ②授業概要 本授業を受講するにあたり、社会で働くためのキャリアとは何か外部講師の先生に実際 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ キャリアデザイン入門 ②授業概要 本授業を受講するにあたり、社会で働くためのキャリアとは何か外部講師の先生に実際
回	内容				
1	①授業テーマ キャリアデザイン入門 ②授業概要 本授業を受講するにあたり、社会で働くためのキャリアとは何か外部講師の先生に実際				

	の実務の経験をもとに講義形式で説明をしてもらう。その説明を踏まえて、学生はどのように自身のキャリアを形成するのか、つまりキャリアデザインをどのように描くことが可能なかを理解し表現できるようになる（B1、C1）。（宮脇） ③予習（120分） 将来の就職したい業界・企業について調べてくる。 ④復習（120分） 授業で配布されたキャリアデザインシートを記入し、将来のキャリアについて再度検討してみる。
2	①授業テーマ キャリアデザインのための自己分析・他己分析 ②授業概要 キャリアをイメージするためには、自分がどのような業界や職業に向いているのか知る必要がある。そのためには、自分はどのような人間であるのかを客観的に分析し、自分がどのような強みを持っているのか知ることが求められる。または他者から見るとどのようなイメージを持たれているのか、他己分析を行う必要がある。授業では、外部講師の先生に自己分析・他己分析の目的と方法を講義形式で説明してもらい、その上で、自分が抱いていたイメージと他人に聞いたイメージを照らし合わせ、その違いを認識しセルフイメージを修正していくことが出来るようになることを目的としている（C1、M1）。2名1組の自己他己分析の演習を行い、自分と向き合い、自分にとってのキャリアを形成する一歩を踏み出すことが出来るようになる（B1、C1）。（宮脇） ③予習（120分） 自分の強みや弱みな何か、キャリアデザインシートに記載してみる。 ④復習（120分） 授業を踏まえたうえで再度自己分析・他己分析を行い、修正点を記入する。
3	①授業テーマ 業界研究・企業研究とは何か ②授業概要 企業研究・業界研究とは何かという説明を行い、なぜ、企業研究と業界研究を行う必要があるのか理解するために、中小企業診断士の資格を持つ実務経験のある外部講師の先生から目的と方法について講義を受ける。その上で、2名1組での演習を実施し、キャリア形成の過程において、企業がどのようなことを目的として営利活動を行っているのか、会社の理念と背景、社会的な責任について話し合いを行い、企業・業界研究を学ぶこと方法と意義について、自分なりに説明できるようになる（B1、C1）。（宮脇） ③予習（120分） 業界研究・企業研究とは何かをインターネットや書籍で調べてくる。 ④復習（120分） 授業で行った、業界・企業研究の実例を踏まえて自分の将来行きたい業界・企業の研究をキャリアデザインシートに記載してみる。
4	①授業テーマ インターンシップとは何か ②授業概要 本授業の終了後にインターンシップを行う予定であるが、そのインターンシップはどのような目的で行われているのか、企業で従事された外部講師の先生の講義に基づき説明を聞き、インターンシップ先で行われる就業体験が自分のキャリア形成にどのように活かされるのかを理解することで、8月に実施されるインターンシップについての知識とマナーを修得できるようにする（B1、C1、K2）。（宮脇） ③予習(120分) 自身の希望する職種のインターンシップの制度について複数で調べて、内容をキャリアデザインシートに書いてくる。 ④復習（120分） インターンシップの授業で行ったワークを踏まえて、インターンシップに行く際の現時点での自分の課題についてキャリアデザインシートに書いてみる。
5	①授業テーマ 社会人としての就職におけるマナー ②授業概要 社会人として働くことは責任と自覚が求められる。そのため、学生時代の振る舞いでは社会で就業するにあたり通用しない場面場も出てくる。そうした現実を知り、社会人として就業するにあたり必要かつ求められるマナーや規範について、企業や大学でマナー講座を行ってきた外部講師の先生を招き、講義形式で学修する。その講義を踏まえて、学んだマナーが身につけているのか、演習を実施し、社会でのマナーを理解しその技法を獲得することが出来るようになる（B1、K1、K2）。（宮脇） ③予習（120分） 事前に指定された社会人としてのマナーに関する書籍を読んでくる。

	④復習（120分） 社会人のマナーとして自身に足りない部分、改善すべき部分をキャリアデザインシートに書いてくる。
6	①授業テーマ 企業研究 1（企業研究の方法を学ぶ） ②授業概要 第一段階である、キャリア形成や企業研究の意義について理解したことを踏まえて、第二段階では、本格的にグループによる企業研究を行う。ただし、企業研究を行うための方法論を学ばないことには、何をどのように研究すればよいのか、わからない。そのため、本授業では、企業研究の方法論について、中小企業診断士の外部講師の先生から講義形式で説明を受ける。そのスキルを学生は獲得し、方法論を適切に使いこなすための理解が出来るようになる（K1、K2、M1）。本授業では、講義後に、実際にスワット分析の学び、演習形式でスワット分析を各グループで行い、駆使することで、企業の強み、弱みについて議論をし、本格的にグループでの企業研究を進める。（宮脇・瀧川） ③予習（120分） 企業研究の方法論としてどういうものがあるのか、インターネットや書籍で調べてくる。 ④復習（120分） 企業研究で学んだ、分析方法を駆使して自分の行きたい業種・企業の研究を行ってみる。
7	①授業テーマ 企業研究 2（グループによる企業研究） ②授業概要 各業種・企業を選別し、5名×10グループを形成したうえで、前回学んだ方法論を用いて、企業研究・業界研究を進め、社会人になるために必要なスキルとナレッジを獲得する。客観的な分析により、企業研究の分析で見えてきた企業の特徴や問題点について見る目を養えるようになる（B1、C1、K1、K2）。各グループの企業研究の進捗に関しては担当教員と外部講師の先生とで演習を見回り、実務経験に基づき研究作業が進んでいるのかチェックを行う。（宮脇・田上） ③予習（120分） グループワークを行うための企業研究の方法について再度確認してくる。 ④復習（120分） グループワークで出された各人の課題を遂行してくる。
8	①授業テーマ 企業研究 3（グループによる企業研究） ②授業概要 各業種・企業を選別し、5名×10グループを形成したうえで、前回学んだ方法論を用いて、企業研究・業界研究を進め、社会人になるために必要なスキルとナレッジを獲得する。客観的な分析により、企業研究の分析で見えてきた企業の特徴や問題点について見る目を養えるようになる（B1、C1、K1、K2）。各グループの企業研究の進捗に関しては担当教員と外部講師の先生とで演習を見回り、実務経験に基づき研究作業が進んでいるのかチェックを行う。（宮脇・瀧川） ③予習（120分） グループワークで行った内容でグループ内で、または教員に指摘されたことを修正する。 ④復習（120分） グループワークで出された課題を各人が遂行してくる。
9	①授業テーマ 企業研究 4（グループによる企業研究） ②授業概要 各業種・企業を選別し、5名×10グループを形成したうえで、前回学んだ方法論を用いて、企業研究・業界研究を進め、社会人になるために必要なスキルとナレッジを獲得する。客観的な分析により、企業研究の分析で見えてきた企業の特徴や問題点について見る目を養えるようになる（B1、C1、K1、K2）。各グループの企業研究の進捗に関しては担当教員と外部講師の先生とで演習を見回り、実務経験に基づき研究作業が進んでいるのかチェックを行う。（宮脇・田上） ③予習（120分） グループワークで行った内容でグループ内で、または教員に指摘されたことを修正する。 ④復習（120分） グループワークで出された課題を遂行してくる。
10	①授業テーマ グループによる中間研究報告 1

	②授業概要 今まで行ってきたグループワークを踏まえて、各グループ5分程度で企業・業界研究のグループ報告と質疑応答を行う。プレゼンテーションスキルを磨き、さらにスキルとナレッジを伸ばし企業研究の意義をより理解できるようになる。また、グループワークの報告内容が的確な分析・評価ができていのかについて、学生、または実務経験がある外部講師、担当教員が講評を行うことで、さらなる改善を行い、獲得してきたスキルが定着しているのか確認することが出来るようになる（B1、C1、K1、K2）。（宮脇） ③予習（120分） プレゼンテーションの内容が配布された評価要件を満たしているかどうか、再度確認し、報告の練習を行う。 ④復習（120分） プレゼンテーションの講評で指摘された内容の修正をおこなう。
11	①授業テーマ グループによる中間研究報告 2 ②授業概要 今まで行ってきたグループワークを踏まえて、各グループ5分程度で企業・業界研究の報告と質疑応答を行う。プレゼンテーションスキルを磨き、さらにスキルとナレッジを伸ばし企業研究の意義をより理解できるようになる。また、グループワークの報告内容が的確な分析・評価ができていのかについて、学生、インターンシップ先の企業や実務経験がある外部講師、教員が講評を行うことで、さらなる改善を行い、獲得してきたスキルが定着しているのか確認することが出来るようになる（B1、C1、K1、K2）。（宮脇） ③予習（120分） プレゼンテーションの内容が配布された評価要件を満たしているかどうか、再度確認し、報告の練習を行う。 ④復習（120分） プレゼンテーションの講評で指摘された内容の修正をおこなう。
12	①授業テーマ グループによる中間研究報告 3 ②授業概要 今まで行ってきたグループワークを踏まえて、各グループ5分程度で企業・業界研究の報告と質疑応答を行う。プレゼンテーションスキルを磨き、さらにスキルとナレッジを伸ばし企業研究の意義をより理解できるようになる。また、グループワークの報告内容が的確な分析・評価ができていのかについて、学生、インターンシップ先の企業や実務経験がある外部講師、教員が講評を行うことで、さらなる改善を行い、獲得してきたスキルが定着しているのか確認することが出来るようになる（B1、C1、K1、K2）。（宮脇） ③予習（120分） プレゼンテーションの内容が配布された評価要件を満たしているかどうか、再度確認し、報告の練習を行う。 ④復習（120分） プレゼンテーションの講評で指摘された内容の修正をおこなう。
13	①授業テーマ：グループによる研究最終報告 1 ②授業概要：前回の中間報告での指摘を受けて修正した内容のPPTを用いてクラス全体での報告会でプレゼンテーションを行う（各グループ報告：7分。質疑3分）。その際に、学生、実務経験がある外部講師、教員がピア評価を行いフィードバックする。この作業を通じて、企業研究で涵養するスキルが身についているのか認識できるようになる（B1、C1、K1、K2、M1）。（宮脇・瀧川・田上） ③予習(120分) プレゼンテーションの報告について、授業中に配布された注意事項や形式要件を満たしているか確認し、予行練習を行う。 ④復習（120分） プレゼンテーションの報告で指摘を受けた点をキャリアデザインシートに記入し、今後の自身の課題に記載する。
14	①授業テーマ グループによる研究最終報告 2 ②授業概要 前回のグループでの報告での指摘を受けて修正した内容のPPTを用いてクラス全体での報告会でプレゼンテーションを行う（各グループ報告：7分。質疑3分）。その際に、学生、実務経験がある外部講師、教員がピア評価を行いフィードバックする。この作業を通じて、企業研究で涵養するスキルが身についているのか認識できるようになる（B1、C1、K1、K2、M1）。（宮脇・瀧川・田上） ③予習（120分）

	プレゼンテーションの報告について、授業中に配布された注意事項や形式要件を満たしているか確認し、予行練習を行う。 ④復習（120分） プレゼンテーションの報告で指摘を受けた点をキャリアデザインシートに記入し、今後の自身の課題に記載する。
15	①授業テーマ キャリア・デザインⅠのまとめと総括 ②授業概要 本授業を通じて獲得したスキルやマインドがどのようなものなのか、再度確認し、企業で必要となるマナーやスキルが何かについて理解できるようになる（B1、C1、M1）。（宮脇・瀧川・田上） ③予習（120分） 今後の課題についてどのように改善すればよいのか自分なりに書いてみる。 ④復習（120分） キャリアデザインシートを再度読み返して授業振り返りを行う。
関連科目	インターンシップ（RMGT3902）
教科書	特にありません。レジュメやワークに関わる資料は適宜配布します。
参考書・参考URL	特にありません。レジュメなどを書いてあるURLや参考文献を読んでください。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 月曜日、火曜日の昼休み
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント領域：25%、パブリックセキュリティ領域：25%、グローバルセキュリティ領域：25%、情報セキュリティ領域：25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学90%、法学10%

